

平成 30 年 5 月 15 日現在

機関番号：32408

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2017

課題番号：25770098

研究課題名(和文)16・17世紀の浄土教絵画とそれに関わる説話・物語に関する研究

研究課題名(英文)Study on Jodo image and story made in 16.17 centuries

研究代表者

日沖 敦子(Atsuko, Hioki)

文教大学・文学部・講師

研究者番号：30448708

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、室町時代から江戸時代前期に制作された縁起絵巻・掛幅絵の制作背景について検討し、これらの絵画を求めた民衆の生活と信仰の形態を明らかにすることを目的とする。本研究期間において調査し、論考をまとめた作品は「熊野の本地絵巻」(聞名寺蔵)、「鞆の浦観音堂縁起絵巻」、「玉ものまへ絵巻」(堀家蔵)、「花咲翁絵巻」(文教大学蔵)などの物語絵巻のほか、「異相本智光曼荼羅」(檀王法林寺蔵)、「当麻寺供養図」(西寿寺蔵)、「矢田地蔵縁起並地獄絵」(法薬寺蔵)などの掛幅絵がある。掛幅絵については、これまで調査を続けてきた浄土宗僧袋中(1552～1639)関連寺院に所蔵される絵画資料を中心に研究を進めた。

研究成果の概要(英文)：This research project examines Muromachi-period to early Edo-period illustrated scrolls and hanging scrolls that depict the origins of temples and shrines. Through these works, I illuminate the lives and beliefs of the people who viewed these images. The illustrated scrolls investigated are: Kumano no honchi emaki (coll. Monmyoji), Tomonoura kannondo engi emaki, Tamamonomae emaki (the Hori family), Hanasakajii emaki (Bunkyo University). The hanging works are: Isou chikou mandala (Dannohourinji), Taimadera kuyouzu (Saijyuji), Yata jizou engi name jigokue (Houyakuji). In terms of hanging scrolls, my survey continued to focus on works and documents in temples associated with the Jodo monk Tichu (1552-1639), about whom I have been researching.

研究分野：日本文学

キーワード：浄土教 絵画 縁起 物語 説話 袋中 中将姫

1. 研究開始当初の背景

日本の仏教史は、法然や親鸞といった名高い僧侶が記した仏教思想や偶像化された高僧伝に関心がもたれがちである。名も知られず民衆の生活の中に溶け込んでいった無数の僧侶や半僧半俗の聖たちの仏教は、世俗性や呪術性から評価も低く、未だ顧みられることが少ない。しかし、民衆と共に歩んだ無名の僧侶や聖たちの仏教こそ、民衆の生活に根差した日本仏教の生態だったと考えられる。

民衆の生活に深く関わる宗教者たちは、様々な語りを通して、民衆の信仰心を喚起した。説話やお伽草子といった文学、また掛幅絵や彫刻といった仏教芸術のなかには、今は名もなき僧尼たちの民衆の心に対する働きかけが窺える例も少なくない。個々の文芸作品の制作意図や信仰的背景について検討を深めようとするれば、それらの文芸が語りかける世界は無限に広がっていく。このような信仰的背景を焙り出す試みは、折口信夫氏、柳田國男氏により基盤が築かれ、筑土鈴寛氏の『宗教芸文の研究』、永井義憲氏の『仏教文学研究』にも見えており、五来重氏においては、民間の伝承文学にまで対象を広げて検討されている。

申請者はこれまで、主に室町期から江戸時代前期を中心とした寺院ネットワークと文芸活動の関係について解明することを目的としてきた。中でも、室町期から江戸時代前期の浄土信仰が、具体的にどのようなかたちで民衆の間に浸透していったのか、中将姫説話の展開について調べを進めつつ、文芸生成に関する根本的な問題として、在地で活動した漂泊僧らの実態を、寺院文書を含む在地資料を精査しながら焙り出していくという手法で研究をすすめてきた。

調べを進める過程で、空念や光世をはじめとする、江戸時代前期の浄土宗鎮西派の僧侶たちの活動に大きな影響を与えた僧侶として、袋中の存在が浮かび上がってきた。袋中に関する研究は、横山重氏の『琉球神道記 弁蓮社袋中集』が代表的な研究成果である。その後の研究動向として、2002年に説話文学学会例会で袋中の特集が組まれ、渡辺匡一氏による袋中著作の所蔵調査の報告がなされたことは特筆に値する。また、2005年に開催された袋中フォーラムでの小峯和明氏らの報告以降、『琉球神道記』や『琉球往来』と袋中の活動が注目されつつある。また2010年8月には絵入り本国際集会で千本英史氏により『袋中上人絵詞伝』が再考され、袋中の活動は国際集会の場で

も注目されつつある。このほか奈良女子大学のプロジェクトにより「奈良地域関連資料画像データベース」が公開され、その一部に檀王法林寺所蔵の袋中関連資料が含まれるなど、徐々に袋中研究の基盤が整えられつつある。

しかし、横山重氏によって研究の道筋がつけられるまで注目されることがなかった袋中の足跡の詳細や活動の実態については、未だ不明な点が多い。特に、琉球から京都へ戻ってきて以降の袋中の活動に関する具体的な研究は殆どなされていない。京都・奈良にある袋中関連の諸寺に所蔵されている数多くの袋中の著作物、袋中が制作に関与したと考えられる仏教美術の大部分は未だその価値が十分に検証されないまま、寺院に所蔵されているのが現状である。袋中に関する資料が未紹介のまま、十分な研究がなされていない現状は、仏教史学のみならず、歴史学、美術史学、文学、民俗学など、いずれの分野においても大きな損失である。

既に申請者は2011・12年度において、科学研究費補助金(若手研究B)の助成を得て、京都市西寿寺蔵「当麻御供養図」「回国法度」など袋中に関する学界未紹介資料を報告しており、さらに関連する研究成果を含め、科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の助成で『当麻曼荼羅と中将姫』(2012年2月)を出版した。掛幅絵の背面や箱書には、袋中と繋がり深い人物の名前や居住地域、職業などが記されている場合もあり、袋中に帰依した民衆の信仰形態の実態を検討するうえで、有益な手がかりとなる。寺院で眠る個々の作品や史料を丹念に検討することで、袋中の布教活動の実態と、彼に帰依した民衆の信仰形態を、ある程度具体的に描き出すことができると申請者は考えている。当時の民衆の生活・信仰の中から生み出された文芸を検討するうえで、晩年の袋中の活動の実態と民衆信仰の在り方の解明は必須の課題なのである。

2. 研究の目的

そこで本研究では、室町時代から江戸時代前期に制作された縁起絵巻・掛幅絵の制作背景について検討し、これらの絵画を求めた民衆の生活と信仰の形態を明らかにすることを目的とする。特に、これまで行ってきた檀王法林寺および西寿寺所蔵の掛幅絵の調査・研究を継続しつつ、掛幅絵の背面にある結縁者名の整理と分類を進め、制作背景及びそれに付随して語り伝えられた

説話や物語について検討し、民衆信仰の実態解明を目指す。

3. 研究の方法

袋中の全国的な足跡と活動状況を踏まえつつ、主に、晩年、京都や奈良を中心とし、民衆を教導した活動の実態について検討する。袋中の足跡を確認しつつ、関連寺院の所蔵史料・資料を精査し、袋中と民衆のかかわりについて調査を進める。このような計画を遂行していくためには、各寺に所蔵される史料を含めた在地史料・資料の収集と正確な分析の積み重ねを通して、宗教者が歩んだ道をより立体的に描き出すこと、教宣活動の場を空間的に立ち上げていくことが必要である。そのためには、聞き取りの過程で得られた情報、在地史料・資料の検証を経て、精緻かつ実証的な研究を行う必要がある。研究の基本姿勢は、フィールドワークである。

4. 研究成果

2013年度は、檀王法林寺蔵「涅槃図」及び旧軸木内蔵品の調査及び西寿寺蔵「二河白道図」の調査を中心に行った。前者の詳細は、「異相智光曼荼羅」の調査結果と併せて論考にまとめた。この軸木内蔵品から明らかになった事柄などについては、『京都新聞』夕刊一面(2013年4月9日付)で取りあげられた。「異相智光曼荼羅」については、「洛中における袋中の活動と民衆」というタイトルで掲載された(『仏教文学』38号)。このほか、西寿寺蔵「二河白道図」を調査し、他の類例と併せて考察をすすめた。

2014年度は、西寿寺所蔵「当麻寺供養図」の軸木から新たに確認できた内蔵品を調べ、その結果をまとめた論考を発表した(『アジア遊学』174号)。軸木からは袋中自筆の名号50枚と願文が確認できた。このほか檀王法林寺所蔵「八相涅槃図」の軸木からも内蔵品が確認されており、これらの内蔵品の発見により、檀信徒によりこれらの絵画が寺に奉納される以前、既に制作段階で袋中の関与があったことが明らかとなった。袋中に帰依する信仰集団がどのように形成されていったのか、またどのようにこれらの絵画が制作され、奉納されたのか、内蔵品から徐々に浮かびあがりつつある。このほか当年度発表したものとして、新出のお伽草子絵巻として堀家所蔵『玉ものまへ』全翻刻がある(『人文学部紀要』35号)。この絵巻は、江戸時代中期制作と推定できる絵巻である。本文と挿絵の検討により、現在

所在不明の矢野氏旧蔵絵巻と極めて一致度が高く、筆跡も同筆と判断できる絵巻であることが判明した。堀家所蔵絵巻の出現によって、複数の『玉ものまへ』絵巻が同様に書写されていたことが具体的に明らかとなった。堀家所蔵絵巻は、矢野氏旧蔵絵巻の詳細を推察する手掛かりとなる貴重な絵巻であると位置づけられる。

2015年度は、新たに確認できた奈良県生駒市法薬寺に伝わる『矢田地蔵縁起並地獄絵』について調べ、その結果をまとめた論考を発表した(『文教大学国文』45号)。毎年、法薬寺の地蔵盆で公開されるこの掛幅絵は、従来、「欲参り」絵として知られていた金剛山寺所蔵の『和州矢田地蔵菩薩毎月日記』(一幅)に類似した図様をもつ貴重な伝本である。「欲参り」とは、毎月特定の日に金剛山寺への参詣を繰り返すことにより、生前の罪が消え、死後、地獄の苦しみから救われるという利益に基づく風習をいう。このような「欲参り」の利益を語る際に効果的な役割を持っていたと考えられる「欲参り」絵であるが、現存するものは破損している点が多い。それに対して、法薬寺の一幅は、保存状態が欲、来迎の様などが細やかにかつ鮮明に描かれている。このほか当年度は『江戸寺院縁起絵巻』など新たな寺社縁起絵巻の調査を行ったほか、檀王法林寺の所蔵資料を含む、主夜神関連の資料についても調べを進めた。

2016年度は、産前産後および育児休職中であったため、主な研究活動、特に遠方での調査・研究を遂行することは不可能だった。しかしながら、前年度までに調査を済ませていた2点についてまとめ、研究成果を報告することができた。1点目は、文教大学文学部日本語日本文学科所蔵『花咲爺絵巻』についてである。当絵巻は、現在唯一確認されている、詞書を持つ『花咲爺』の絵巻であり、その価値と位置づけについて『文教大学国文』46号にまとめた。2点目は、すみだ郷土文化資料館所蔵『江戸寺院縁起絵巻』についてである。当絵巻は、『江戸名所記』を抽出し絵巻化している珍しい作例であり、その内容について詳しく紹介した(『すみだ郷土文化資料館研究紀要』3号)。

2017年度は、新たに鳥取県の個人所蔵の「二十五菩薩来迎図」が浄土宗僧袋中(1552~1639)由来のものであることがその裏書からわかり、調べをすすめた。このほか、和歌山県橋本市得生寺や奈良県宇陀市青蓮寺など、中将姫説話・伝承に関わる寺院に

所蔵されている絵巻および掛幅絵の調査を行った。今後も適宜調査を継続しつつ、研究成果をまとめていく。これらの資料調査のほか、前年度までに調査を済ませていた資料について、『説話・伝承学』26号にまとめた。論考で紹介した資料(個人蔵)は、寛文元年(1661)刊『因果物語』上7「下女死本妻ヲ取殺事付主人ノ子取殺事」で知られる逆立ち幽霊譚を想起させるものである。拙文では、この話が家の伝説として語り継がれてきた点に注目し、このような怪異譚が語れる場について検討した。

現段階で調査中の諸資料については、来年度以降まとめていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

日沖敦子「洛中における袋中の活動と民衆異相智光曼荼羅を中心に」『仏教文学』38巻、2013年、30-41頁

日沖敦子「(書評)山本陽子『絵巻の図像学』「絵そらごと」の表現と発想」『説話文学研究』49号、2014年、148-151頁

日沖敦子「袋中と民衆の信心 西寿寺蔵『当麻寺供養図』軸木内蔵品を端緒として」『アジア遊学 中世寺社の空間・技芸・テキスト』174巻、勉誠出版、2014年、67-83頁

日沖敦子「(翻刻・紹介)堀家蔵『玉ものまへ』絵巻について」『人文学部紀要(神戸学院大学人文学部)』35巻、2014年、247-284頁

日沖敦子「奈良県生駒市法薬寺蔵『矢田地蔵縁起並地獄絵』について」『文教大学国文』45号、2015年、19-44頁

日沖敦子「文教大学文学部日本語日本文学科所蔵『花咲翁絵巻』について」『文教大学国文』46号、2016年、57-88頁

日沖敦子「(翻刻)(史料紹介)すみだ郷土文化資料館蔵『江戸名所記絵巻』(江戸寺院縁起絵巻)について」『すみだ郷土文化資料館研究紀要』3号、2017年、巻頭カラー~頁、30-41頁

日沖敦子「幽霊からもらった杓子と駒の角 逆立ち幽霊譚の変奏」『説話・伝承学』26号、2018年、169-192頁

〔学会発表〕(計1件)

日沖敦子 ディスカッション(シンポジウム「紀州地域の道と景観・儀礼・芸能」)和歌山大学、2015年8月27日

〔図書〕(計2件)

日沖敦子「『鞆の観音堂縁起絵巻』の制作と

その背景」(徳田和夫編『中世の寺社縁起と参詣(中世文学と隣接諸学8)』竹林舎、2013年所収)全544頁内502-528頁執筆
日沖敦子「富山県聞名寺蔵『熊野の本地』絵巻について」(石川透編『中世の物語と絵画(中世文学と隣接諸学9)』竹林舎、2013年所収)全504頁内76-97頁執筆

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

日沖 敦子 (Atsuko Hioki)
文教大学・文学部・専任講師
研究者番号: 30448708

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者

()